



ポロにいそむウィリアム王子。世界中の女性がお妃に立候補するモテ男。曖昧模糊たる上流のライフスタイルを、メディアで確認できる唯一の存在で、実は男性にとっても憧れの対象となっている
Photo by AFLO

エレガンスの社会学

その着こなした理由アリ

文 中野香織

第4回

ばりばりの階級社会のお手本みたいだったイギリスも、近年、少なくとも表向きは、クラスのない社会 (classless society) に近づいているかに見えていた。

しかし、なにか大きな出来事があるときに、噴き出し始めるのである。社会の底にマグマのようにふつふつしている、根強いクラス意識が。ウィリアム王子と、公認の恋人で年内の婚約さえ噂されていたケイト・ミドルトンの破局が報じられたとき、メディアがやかましく報じた理由の一つは「クラスの違い」だった。具体的には、ケイトのお母さん。サンドハースト王立陸軍士官学校でガムをかんでいたとか、エリザベス女王に対して「お会いできてうれしいわ (Pleased to meet you)」なんて言っちゃって女王を怒らせたとか。破局の真相はともかく、トイレのことを「お化粧室 (lavatory)」と婉曲に上品に表現せずに、まんま「トイレ (toilet)」と言ってしまうロウワーなケイトママの言動をめぐると、スキヤンダルは、ウォーターゲートならぬ「トイレットゲート (toiletgate)」と名づけられた。

話

階級に対する幻想は、本来、階級がないはずのアメリカや日本において、さらに強いのではないかと。からこそ、自分も、という夢がより抱かれやすいのではないかと。上質な服を着て、リッチで優雅なライフスタイルを楽しむ、サ・上流にオレだつて。人々の無意識に潜むそんな上流幻想を具体的に形にしてみせ、消費者の気分を上流に連れていくことでビジネスを成功させたファッションブランドが、ほかならぬアメリカのラルフ・ローレンである。ラルフ・ローレンが提案する高貴なライフスタイルは、イギリスの上流階級の伝統には、ない。英国カントリハウスをとりまくタイムレスハリウッドのグラマラスが入ったクラシック。そしてミリオネア好みのパーソナル。こんな要素を巧みにブレンドした、万人の憧れをかきたてるグッドライフこそ、ラルフのサ・上流のイメージである。

中でも、男のファッションの一つのカテゴリにまでなったのが、優雅な時間の流れを感じさせるクラス感あるスポーツ、略してクラスポ(英語にはこの名称はありません、念のため) から生まれたファッションである。ポロ、クリケット、テニス、ヨット、シューティング、ゴルフ。いずれも、有閑階級が親しんできた

紋章やナンバリングに、どうして男性は惹かれるのか

スポーツである。スポーツ (sport) は、そもそも彼らの気晴らし (distort) として生まれた。disはaway、portはcarry、つまり気持ちを遠い所へ運ぶ (carry away) 暇つぶしというわけですね。ちなみに身体と身体がぶつかるようなスポーツは、クラスポには含まない。

ラルフ・ローレンが提案するクラスポのウェアは、実際にそのスポーツをたしなむ人が着るわけじゃないんですよね？

「ウィンブルドンやU・S・オープンの公式ユニフォームを提供しており、それを一部の店舗で販売する」ということはありますが…。基本的に、町で着るためのファッションとして提案していますね。一度、テニス専門誌に広告を出したことがありましたが、間違いました(笑)。機能重視のスポーツウェアとは、別のもので「機能追求型ウェアはRLXという別ラインで出しているという。では、機能重視のスポーツウェアと、具体的に、どのように違うのでしょうか？」例えばテニスウェアは、あえて昔の素材を使ったりします。麻のパンツとか、クラシックなおいがするものを。機能が入ると、ファッションじゃなくなるんです」

今秋、店頭に並ぶ予定の「ハンティングスタイル」にしても、タイをきっちり締めた、昔のハンティング服そのまんまに近い。クラシックな貴族の余暇スタイルへのノスタルジィがまた、男心を突くらしい。ウインドウや店頭での服の見せ方も、実は計算し尽くされている。ク

Kaori Nakano
服飾史家。人に来て、話を聞き、そして書くのがライフワーク。UOMOが提唱するエレガンスを、毎回人物を切り口にしてわかりやすくひもときます。「モードの方程式」が男のファッションをめぐる鼎談を取録して新潮文庫になりました。

リエイティブチームが作った世界共通のマニエールがあり、それには「ベルトのバックル位置を中央からはずす (offset belt)」とか、「タイの先端はパンツの中に入れるけれどシャツの裾は出す」などの細かな指示が書かれている。有閑階級の暇つぶし、もとい、リラククスした上質な時間の流れを感じさせるための、徹底した演出がなされるわけである。

アンチ機能、漠然としたノスタルジー、わざとらしいにそうは見せないリラククス感。そんな要素が、実体なき上流幻想と手を携えて、青芝の上で白馬に乗ってポロにいそむウィリアム王子の気分。へと気持ち運んでいくのかもしれない。現実には、ポロ国際大会をすればハーフタイムに観客全員で荒れた芝を踏み固めなくてはならないような日本であればこそいっそう。男も夢見る、白馬の王子。

それでは、服につくナンバリーは？ 「番号は選手ですから。やはり憧れです。華やかさがあります」と内田さん。一方、本欄担当K君は別の説を唱える。「男は番号ふられるのが好きなのかもしれない。そんな男にしかわからぬブチマツチョンにおいても上流願望のテレを薄めているようにも見える。いずれにせよ、クラスポ気分が女王陛下に会ったら How do you do? がお約束。